

2010年5月25日

東日本区1998~2011ヒストリアン 吉田 明弘

横浜関内クラブが国際加盟

横浜関内クラブの国際協会加盟認証状伝達式が、5月22日16:30から横浜市パンパシフィック横浜ベイホテル東急で行われました。今夏、国際大会が開催される「みなとみらい」です。

チャーターメンバーは18人。原俊彦区理事によって入会式が行われ、認証状が区理事から、新クラブの谷口尚頌会長に伝達されました。

スポンサークラブは、創立4年の金沢八景クラブと、昨年、同クラブによって設立された沖縄クラブでした。この快挙に参加した約90人が讃辞と新クラブに対する祝福と激励をおくりました。カナダからのBF代表 Thomas Brasil Grasse さんも目を輝かしていました。

昨年、横浜市は開港150年、横浜YMCA130年を祝い、今年はともに第1年目の記念する年でした。田口務・横浜YMCA 総主事は、祝辞の中で、「古いものと新しいものが融合して新しいものを生みだすのが、横浜の精神。東日本区で最も古い横浜クラブと最も新しいクラブが連携して、横浜YMCAとパートナーとなって欲しい」と述べられました。

谷口会長は、「会員の社会的、職業的経験を生かしてYMCAと一体となって地域奉仕、青少年育成に寄与したい」と語りました。

新クラブづくりは、2000プロジェクトが契機となって金沢八景クラブによって始められ、まず関内支部をつくり、会員50人のマンモスクラブを設立する構想でしたが、さまざまな判断から当初の予定を早めて、2月27日、神奈川県民ホールで設立総会を行いました。

Historian's View 拝啓 横浜関内クラブ殿

お誕生おめでとうございます。お知らせを受けた時、思わず「えっ、また?」と言ってしま

いました。沖縄クラブが生まれて、まだ5カ月だったからです。チャーターメンバーの18人はご立派、心からお喜びを申し上げます。

かつて日本では、1YMCA・1クラブの時代がありました。1951年、大阪YMCAにおいて、戦前生まれの大阪クラブに次いで設立された大阪土佐堀クラブが第2クラブの草分けです。

東京では、1953年に誕生した東京山手クラブが第2クラブでしたが、別宅ともいえる東京山手センター生まれでしたから、その後に誕生した東京むかでクラブが次男格にみられています。

そういう意味では、あなたも戸籍上とは別に横浜の第二子といえます。

ヤンチャでも大目に見てもらえるのが次男坊の特権です。存在を示す必要もありますから思い切ってやってください。

不思議なことに、大阪土佐堀クラブもまったく同じですが、あなたの名前も「長男」と思われやすいのです。横浜開港の際に設けられた外国人居留地に由来する関内という地にある横浜YMCAは、市民から「関内のYMCA」と呼ばれて親しまれています。そのために人は、いわば「太郎」というべきクラブ名を聞いて、あなたを長男として扱ってくれるかも知れません。その時には、どうぞ、堂々と振舞ってください。

第二クラブといえる先輩は、日本区では、札幌北、仙台青葉城、宇都宮東、甲府21、熱海グロリークラブと、いずれも個性豊かです。

こういう時代ですから、お兄さんの言うことをよく聞きなさいとは申しません。同じことをやったのでは意味がありません。お兄さんの横浜クラブと情報を通わせながら、生き生きと活動されることを、私たちは、仲間として期待しています。

次ページもあります

ワイズメン二世列伝

東日本区編

蓄積された人脈と培われた知恵を継承して活躍する東日本区のワイズメン二世を紹介します。

* * *

熱海クラブの中島寛勝さん、41歳は、35年前の熱海国際大会にも参加したという。日本文化を紹介するキモノショーに七五三の衣装で登場した。毎年、年賀切手シートを2000枚以上集めて驚嘆させるが、これも父・故中島修さん（後に熱海グロリー）から家業とともに引き継いだ遺産である。

同じクラブの青木義美さんも父・故青木義明さんから冷凍設備設置業の経営を引き継いだ。義明さんが、熱海国際大会のときに、アトラクション「ホリデー・オン・アイス」のリンクの結氷状態を徹夜で保守したことは、今でも語り草となっている。

横浜国際大会でチーフ・マーシャルを務める東京クラブの筈川光郎さんはワイズ三世というべきか。父・故筈川一さんは、1931年設立の東京クラブのチャーターメンバー、その後東京むかでクラブに移籍。母文子さんは、日本区初代メネット事業主任、祖父は、日本YMCA同盟の齋藤惣一総主事で東京クラブに属した。

東京八王子クラブの井口真さんもワイズ三世で、主事も三代目。祖父・故井口保男さんは太平洋戦争中に南京の日本人YMCAで活躍、戦後は東京山手クラブに属した。二世・井口延さんは日本YMCA同盟総主事を務め、現在は東京武蔵野多摩クラブに所属。

東京山手クラブの社本美穂子さんの父は故淵田多穂理さん。熊本YMCAの熱血主事で熊本クラブ設立に力を注いだ。金沢YMCA時代に作詞した『YMCAの歌』は、作曲者津川圭一に「詞をみて、すらすら曲想が浮かんだ」と評された。『ワイズソング』の訳者でもある。

札幌クラブの宮崎善昭さんは北海道YMCAの総主事。父・故宮崎善夫は、学生YMCAのOBで、北海道YMCA池田鮮・総主事の依頼で

1955年に札幌クラブを創設、初代会長となり、北部(現在の北海道部)部長を2回務めた。

千葉クラブの照山莞爾さんの父・故照山虎壽さんは、熊本クラブのチャーターメンバー。南西部(現在の九州部)部長を3年連続務めた。晩年は東京武蔵野クラブに属し、2001年の区大会には100歳で参加した。

十勝クラブの森田博之さんの父・森田利徳さんは十勝クラブの事業「馬鈴薯販売」の馬鈴薯生産農場を経営し、十勝クラブでは会長も務めた。2005年に逝去後、博之さんが家業とクラブを継いだ。母牧子さんはメネット会員。

所沢クラブの桑原道子さんは埼玉YMCAの総主事。父・故海老沢義道さんはYMCA主事。横浜クラブ、札幌クラブ所属。退職後は、東京武蔵野クラブ、東京西クラブでワイズライフを楽しんだ。ブラジル生まれのスポーツ・フットサルを日本に持ち込んだといわれている。

東京山手クラブの奈良信さんの父は、日本の最初のワイズメンズクラブ・大阪クラブを創立した奈良傳さん。日本のワイズメンの父とも言われる。親子が区理事を務めたことも珍しい。信さんは父の「千里の道」を歩み続ける。

東京サンライズクラブの菰淵光彦さんの父は東京山手クラブに在籍し、BFに熱心だった故菰淵輝彦さん。戦時中は陸軍偵察機のパイロット。戦後生まれた光彦さんは、親の名から「軍」がとられた。クラブ設立と同時に入会した。

同クラブの小山憲彦さんの父は、東京山手クラブに所属していた故小山五郎さん。妻子三人で居候していた憲彦さんはBF切手、海外からのビジターの接待、バザーを受け持つ。東京サンライズクラブ設立時に、「行け」と命令された。

横浜クラブの高田一彦さんの父は、鎌倉クラブの故高田彰さん。戦後の日本キリスト教界の中核。自分の教会内に鎌倉YMCAを置いた。2009年に99歳で逝去するまで現役ワイズメンであった。

ここで甲府のメンバーが5人続く。いずれもクラブでも山梨YMCAでも重鎮であった。甲

府ならでは人間関係の濃密さと、組織的に事を進める武田勢の軍略を感じる。

石川博さんの父は、石川真一さん。博さんは学校低学年まで父に連れられてワイズの行事に参加した記憶がある。父は生糸を扱い、自分は教職を選んだが、クラブOBの子弟を入会させようという甲府クラブの父と同じころ入会のベテランメンバーの誘いを受けた。

石原祥平さんは、大学で神学を学んだが父の故石原宗美さんが甲府で経営する水晶貴金属販売業を継いだ。父がワイズに属していることは承知していたが、特に勧められなかった。若い頃の先輩や友人に勧められて入会した。

二子石宣秀さんの父は、山梨YMCA常議員だった故二子石宣威さん。中学時代から県外で過ごした宣秀さんが就職後、市内の本店に転勤した時、伯父の布能壽英さん(甲府)に誘われ、このとき初めてワイズの存在を知ったという。

荒川洋一さんの父は、故荒川信三さん。現役会員として逝去した。少年時代に山梨YMCAのカブスカウトに参加していた。甲府クラブのメンバー拡充運動で声をかけられ、父の入会42年後の2008年に入会した。

甲府21クラブのチャーターメンバー輿水正光さんの父は、北東部部長を務めて1980年にエルマー・クロウ賞を受賞した甲府クラブの故輿水正信さん。新クラブ設立の際、誘われてチャーターメンバーとなった。

東京武蔵野多摩クラブの山口直樹さんの場合は、逆コース。まず、直樹さんが中学1年で野尻キャンプに参加、次に母道子さんがYMCAボランティアに参加、1979年に直樹さんが東京YMCAに就職。最後に父・宗樹さんが東京むかでクラブ入会。直樹さんは退職後もメンバー。

東京北クラブの担当主事で、国際大会にバンドマンとして出演する山根一毅さんの父は、昨年横浜YMCA総主事を惜しまれて退任した山根誠之さん。熊本クラブ、横浜クラブを経験した。今は充電中。

東京サンライズクラブの中富貴仁さんの場合

も三代目というべきか。祖父・中富外一さんは、東京YMCA内に『YMCAレストラン』を営み、戦時中、集会を監視する警官から参加者を逃したと言われている。父は、東京クラブで活躍した中富頼隆さん。ご当人は、早朝例会だった東京サンライズのチャーターメンバー。

これからは、親子とも現役の方々。

沼津クラブの大村貴之さんの父は三島クラブの大村俊之さん。1967年、28歳で沼津クラブにチャーターメンバーとして入会した俊之さんは、ワイズメンズクラブをさまざまな人と出会う、人育ての場と心得ているように見える。これと思う人を入会させている。大村貴之さんは、2007年に入会した。

東京たんぼぼクラブの越智京子さんと東京銀座クラブの越智光輝さんも忘れるわけにはいかない。京子さんは声楽、幼少期に東京山手センターに通った光輝さんはクラリネット奏者と同じ道を歩む。「姉弟」だと言ってはいるが・・・。

富士五湖クラブ茅野信雄さんの父は甲府21クラブの茅野崋さん。信雄さんの勤務地が富士吉田市だったため、富士五湖クラブ設立を目指す甲府クラブの会員候補者調査網にかかった。「私からは一言も勧めていない」は、崋さん。

会津クラブのチャーターメンバーの高橋力さんと高橋京子さんの二世は、高橋真人さん。牧師の道も継承している。力さんの活動は、最近朝日新聞夕刊の『人脈記』で取り上げられたが、今はワイズではパートナーの立場。

東京たんぼぼクラブの小原史奈子さんの父が東京世田谷クラブの小原武夫さん。1997年、小原武夫さんとともにエルマー・クロウ賞を受賞したのが京都グローバルクラブの大槻隆彦さん。偶然二人とも2002-2003年度の東西日本区の理事に指名されていたが、大槻さんは就任直前の4月に急逝した。当時、ユースクラブで活躍したコメント大槻展子さんは、現在、東京クラブ在籍。大槻隆彦さんが、決めていた理事主題は、『No Dream No Future』であった。(完)

次ページもあります

甲府クラブの『IBC 友情物語』

甲府クラブの創立 60 周年記念式典の参加者名簿に、DBC である和歌山クラブのメンバー以外では唯一、名古屋クラブの小尾雅彦さんの名がありました。小尾さんは、山梨県内の高校出身です。

1952 (昭和 27) 年、米国ダavenport 国際大会に参加した甲府クラブの 3 人のメンバーがブラザークラブのペンシルバニアのハリスバーグクラブを訪問しました。甲府クラブの県下の青少年に対する事業の報告に感激したハリスバーグのメンバーは、その場で献金を集めるとともに、毎年 200 ドルの献金を申し出ました。

甲府クラブは、この好意を生かすべく、『ハリスバーグ奨学金』を設け、県内のハイ Y (高校) のある 22 高校から希望者を募り、選考して 10 年間で 66 人に奨学金を支給しました。その受給生の一人が小尾雅彦さんだったのです。

話は続きます。やがて日本も復興して経済的に豊かになり、事情が変わったため、甲府クラブは、開設 10 年をもって奨学金制度を打ち切ることになりました。ハリスバーグクラブに感謝の思いとともに中止の意向を伝えました。

しかし送金は翌年もあり、甲府クラブは、両クラブ名で ASF (当時の PWASF) に献金して、友情の証としました。

話はさらに続きます。1975 (昭和 50) 年、熱海で行われた国際大会のある夜、名古屋クラブのワイズメンになっていた小尾さんが、甲府クラブのメンバーをホテルの一室に訪ねました。感謝を述べるとともに、甲府クラブのアジア地域援助基金に加えてもらいたいと献金を申し出ました。甲府クラブは、大会に参加していたハリスバーグクラブのメンバーに托して、同クラブから基金への献金を依頼しました。ハリスバーグクラブは自らの募金も合わせて YMCA 香港研究所に贈ったということです。

そしてこの日。記念祝会の壇上で大澤英二さんが経緯を説明し、小尾さんが山梨 YMCA と甲府クラブへの感謝の気持ちを述べられました。

Historian's View

甲府クラブの『IBC 友情物語』は、同クラブの記念誌を史料とした『日本ワイズメン運動 70 年史』を、新たな思いで読み直し、まとめました。50 年以上前の夢のような話ですが、過去の出来事として押しやられない力があります。

- ・当時の甲府クラブは全県下を視野におさめていたこと。そして今、甲府クラブが全県下を対象とした山梨チャリティーランに中心的に取り組み続けているという現実。
- ・当時の高校生が今だに感謝の気持ちを持ち続け、それを行動にあらわしているという現実。
- ・1928 年に国際加盟して 1950 年までに 3 人の国際会長を輩出し、名門中の名門と目されていたハリスバーグクラブが熱海国際大会の数年後に解散したという現実。
- ・しかし、ハリスバーグクラブのメンバーの思いが国を越えて、時代を超えて甲府クラブで記憶され、伝えられているという現実。

あとがき

先日、横浜国際大会のマーシャル委員会の後、食事しながらワイズメン二世を話題にしたら、「私もそうだ」と言ったのが、笈川光郎さん(東京)、小原武夫さん(東京世田谷)、高田一彦さん(横浜)、奈良昭彦さん(名古屋)。「うちは女系で三代目」は西村隆夫さん(東京センテニアル)でした。

奈良さんの父・故奈良常五郎さんは大阪、神戸の YMCA の元総主事、母・澄江さんは東京山手クラブで活躍して、名古屋クラブに移られました。コメット聡子さんも東京センテニアルクラブのメンバーでした。西村さんのメネット西村久美子さんのお父さんは鈴木功男さん(東京山手)そのメネット美代子さんのお父さんが故後藤安太郎さん(東京山手)です。

今回は、東日本区の「メンバー」の直系に絞りました。リストアップには何人かの方にご協力いただきましたが、もれていた場合にはご容赦願います。